

価値観再生と地域磨きによる農村回帰たけたプロジェクト

～「たけた市(いち)」「エコミュージアム地域資源発掘」でふるさと高付加価値化～

概要

竹田に宿る伝統の「技」を用い、現代の生活者のニーズに合った製品の開発に取り組む。開発された製品は城下町で開催される「たけた見本市」を通じて紹介され、中心市街地・“市”としての機能の再生と、“竹田ならではの暮らし”の構築を目指す。

展覧会・ワークショップを通じ、竹田の伝統産業・伝統工芸の周知に努めると同時に、現在も活動する作家の手仕事を、ホームページやパンフレット、プロモーションビデオの作成を通じ発信する。

大分県竹田市



伝統の「技」周知事業



プロモーション事業



製品開発披露式



たけた見本市

事業の内容

事業の内容

- 竹田の竹工芸と『aeru』（株式会社和える）とのコラボにより「竹のベビーベッドメリー」を開発
- 「竹のベビーベッドメリー」と竹田在住の作家の作品を紹介する「たけた見本市」を開催（竹田市・東京）
- 伝統の「技」周知事業：“絞り染め”の展覧会と野焼き陶芸体験ワークショップを実施
- 竹田在住作家の活動を紹介するプロモーションビデオやパンフレット、ホームページの制作

総事業費

10.0百万円

ポイント

地域資源を活用したイノベーションだけでなく、それを市民の日常の中に取り入れてもらうためのコミュニケーションを図ることが本事業の最大のポイントであった。その延長上に“竹田ならではの暮らし”が構築され、地域のコア・コンピタンスを形成していくことが狙いであった。

事業の成果

「竹のベビーベッドメリー」のにより、竹工芸家の生活基盤の確立や雇用創出の下地が整えられた。また、竹田の竹工芸が広く知られるきっかけとなり、移住作家の獲得にも大きな後押しとなった。他の分野で活動する竹田在住作家についても、「たけた見本市」や様々なプロモーションツールにより市内外に広く周知された。竹田に宿る伝統の「技」を、改めて市民を中心に体験してもらう機会を創出し、継承していくためのきっかけづくりとなった。